

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200620		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム 厚南		
所在地	山口県宇部市黒石北4丁目5番39番		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 10 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとり担当があり、個別対応に努め、出来る事を見守り、出来る事を少しでも長く継続できるように支援している。看取りの経験もし、ご家族の協力を得ながら、最後まで馴染みの環境の中で過ごしていただくように努めている。職員の意識向上などに向けた勉強会を開催している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3570200620-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 1 月 17 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

とても穏やかな施設である。利用者が、自主的に団結していて、賑やかな会話が飛び交うリビングとなっている。職員は、利用者を静かに見守ることに徹していて、一丸となった利用者は、共同で作品作りにも黙々とチャレンジしていた。そして、昼ごはんが終わって、一息ついたら、いつの間にかリビングに集まった利用者全員が、誰が声掛けすることもなく一斉に立ち上がり、居室に向かって歩き出し、居室で自由な行動を愉しもうと心を共にしていた。職員の行動は、利用者本位の利用者に任せた介護の助け舟としていて、利用者が困ったときや事故が起こりそうなときにすぐヒーローのように現れ、安心できる体制を築き、安全な時は、記録や準備を熟す仕事に徹していた。施設長は、会社の存続を目指し、利用者さんが楽しめるために何が喜ばれるかを模索しながら、モノ一つ購入に関しても無駄遣いをせず、利用者の気持ちを叶えるように発語や普段の会話から拾い上げる気配りをしていた。とにかく、接遇が永遠の課題であると思い、利用者が満足できる施設に心がけていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族にも伝え、全職員と共に考え、実践につなげている。	理念は事務スペースに掲示されている。他にもケア方針や心得が廊下に掲示されていて、いつでも目に留まり、原点を振り返る事が出来る。	理念を今まで以上に、内部・外部の方に伝わりやすくする工夫をしてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、月1回の高校生を招いての園芸教室参加。併設のデイサービスでの敬老会や催しに参加して地域とのつながりを続けられるよう努めている。	町内会に入り、地域の一員として清掃活動や会議にも参加しているので、地域に周知され、存在が認知されている。関連事業所と合同でイベントを実施し、利用者同士の繋がりも築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	努力中、認知サポート養成講座時の見学場所提供。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	研修を行いたいと課題を掲げ、月1回は施設全体での働き方の指針。接遇指針の研修に参加している。	研修を毎月行い、外部評価での目標に向けた取り組みを検討し実施している。定期的に自己評価を行うことで、自分たちのケアを振り返る機会となっている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族にも報告し、意見も取り入れてサービスの向上に努めている。	コロナ禍のため、現在は書面にて開催している。委員からの意見を汲み取るため、返信用の書類も同封していて、全家族から意見が届いていた。	多方面の意見を取り入れるための工夫をしてはいかがでしょうか。
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議時に話し合っているほか、直接出向いて相談したりしている。	市の担当者との対応窓口は、管理者や法人本部が行っていて、何でも相談が出来る関係が出来ている。運営推進会議でも協力して頂き、顔の繋がりのある関係作りも出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は玄関は施錠、併設施設との行き来は可能である。身体拘束に何が当たるのかを職員全員で理解し、抑制や拘束をしない介護に努めている。	委員会を2ヶ月に1回開催し、職員の理解を深めている。どの職員でもイメージしやすくするため、実際に体を動かす研修も取り入れている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は接遇指針の研修中でも必ず学び、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は今後していく予定。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と入居者様のご家族の不安や疑問点は、その都度対応している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見を反映するように努めている。	話の好きな利用者が多く、日常の会話から意見や要望を聞き入れ、可能な限り実現している。ご家族からは受診の付き添い時や面会の時に聞きとっている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談以外にも、職員の意見を聞く機会を設けている。	月に1回の職員会議以外にも、普段から職員同士が話しやすい関係が作られている。ケアの方向性や利用者が過ごしやすくなるためのアイデアを柔軟に取り入れ、実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談を行い、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員に情報を伝え、希望に応じて受講の機会を提供している。法人内の研修は参加している。	希望の外部研修へ参加しやすくするため、勤務の調整をしている。法人内で資格取得に向けての研修も開催し、スキルアップにも繋がっている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の研修会などに参加し、職員の情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	中々ご家族の本音を聞くことは難しいが、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事を見つけて職員と共に過ごしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が職員が介護をゆだねているというところもある。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚及びご友人の面会で来園された際、居室にご案内し談笑して頂いている。また外出や外泊などの機会をもたれるように働きかけている。	面会は、コロナ禍のため時間制限を設け、居室での面会を継続している。外泊や外出への支援もして、会いたい人との関係が続けられるよう取り組んでいる。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方々や利用者様同士の関係づくりに心掛けている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アンケートや、日常の関わりのなかでの入居者様の行動や会話の内容を介護記録に記録し、その中から本人の想いや意向把握して、ご本人主体に努めている。	普段からの会話も多く、利用者の思いは日常的に聞き取って、記録に残している。言葉数の少ない利用者への把握は、話しかける機会を増やし、本人の想いを表情や仕草から理解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に聞き、少しずつ努力している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症状が進みつつある方もおられるが、出来る事を見つける努力をしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの意見はなかなか聞けないが、随時職員同士で話し合っている。カンファレンスやアセスメントを行い介護計画に反映させている。	1ヶ月ごとにプランを確認し、現状と照らし合わせている。医療ニーズの高い利用者については、医師へ相談しプランに反映させている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報共有をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時職員同士話し合い、柔軟な支援に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所への挨拶、声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医として受診の支援をしている。希望に応じて皮膚科や歯科の訪問診療も受けることができる。	月に2回、連携病院の医師が訪問診療を行っている。他科の受診については、家族に対応をお願いしている。薬局との連携も取れていて、薬の内容等で分からないことがあれば何でも聞ける関係が出来ている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週で訪問して頂き、連携を取っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は地域連携室の相談員の方と密に連絡を密に行い、病状の把握に努め退院に向けて関係づくりに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」をもとに、事業所で出来る対応についての説明をしている。	入居時に重度化になった時の意向を家族・本人に聞き取っている。看取りの体制は整っていて、利用者の状態に合わせて医師とも話し合い、方針を決めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	発生時には事故報告書・ヒヤリハット報告書を記入している。全職員に回覧を行い、内容を共有している。	事故発生に備えて、年に2回は急変・緊急時対応の研修を行っている。事故報告書・ヒヤリハット報告書の内容は回覧だけでなく、職員会議でも検討し再発防止に努めている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の消防署の協力を得て、併設との合同総合訓練に参加している。	火災は昼・夜を想定した訓練を実施している。ハザードマップ上は浸水被害の想定エリアなので、水害に備えた訓練も実施している。災害に備えて、法人全体で食料・水分の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	働き方の指針や接遇指針の勉強会を実施し、入居者様の人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉掛けと支援を行っている。	呼称は苗字に「さん」を付けている。居室やトイレに入る時は、必ずノックをして意向を確認している。職員同士で利用者の体調等について話す時も他者に聞こえないようなトーンで話している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の表情やペースに合わせた対応で接している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、ご利用者様の想いに寄り添える支援に努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御利用者様の希望を伺いながらも、季節を意識しての装いを支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、法人からの配食で盛り付けやお茶くみ、下膳や食器拭きなどを会話を楽しみながら行っている。	月に2回は利用者のリクエストに応じた調理をしている。誕生日の時は、食べたいメニューを聞き、リクエストに応えている。畑でとれた野菜や果物で1品追加されることもある。苦手や嫌いなメニューの時は、食材や調理方法を変え、喜んで食事を摂ってもらう配慮もみられた。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、利用者様一人ひとりの状態に応じた必要量に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様一人ひとりに応じた口腔ケアを施行している。月1回、歯科往診を受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄サイクルに合わせ、時間を確認しながら入居者様一人ひとりに声掛けや誘導でトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄動面で自立されている利用者が多く、排泄用品の使用も少ない。トイレの誘導が必要な利用者は、排泄チェック表を活かし、一人ひとりに合わせたケアをしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	14時から毎日入浴を行っている。入居者様の状況や状態によりシャワー浴や清拭などの対応を行っている。	入浴を好まれない利用者へは「足湯だけでも、どうですか？」と伝え、入浴の環境に慣れてもらい、少しずつ入浴への意欲が増えたケースもある。ゆず湯や入浴剤などを取り入れ、気分転換も図っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の睡眠パターンを大切にしている。体調に応じて日中は昼寝や休息が出来るように心掛けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬の目的と副作用を把握し、症状の変化に対応出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵を楽しまれたり、DVDの歌と一緒に歌われたり、パズルが好きな方は完成に夢中になれるなど、一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。	リビングで過ごしている利用者は、一人ひとりに合わせてアクティビティを提供している。日中の生活にメリハリをつけるため、昼食後はそれぞれが過ごしたい場所で寛がれている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外の散歩や外食などで外出の支援を行っている。ご家族の協力を得ての受診、外出、自宅に帰られ、友人や親せきの方々に合われるなどの支援を行っている。	家族の協力のもと、今までと変わらない外出が出来ている。散歩やドライブ、関連施設での合同行事など外出する機会が多くあり、利用者にとって良い刺激が受けられている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、電話の取り次ぎや、年賀状を送るなどの支援に努めている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度・湿度、換気に配慮している。利用者様の作品を掲示し、いつでもご利用者様やご家族様をご覧になれるように工夫している。	利用者同士の会話で笑顔にあふれているリビングは、大きな窓から沢山の日差しも入り、明るく開放的な雰囲気がある。窓の外には畑もあり、自分たちで育てた野菜や果物の成長もみられる。BGMIにクラシック音楽が流れ、穏やかな時間を演出している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望を伺いながら、工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族様の写真や愛用品を置いていただき居心地良く過ごしていただけるように配慮している。	備え付けはベッド、カーテン、エアコンがあり、それ以外の居室への持ち込みは火器以外は自由に行っている。仏壇やタンス、テレビなどを持ち込まれ、一人ひとりが快適に過ごせる場所となっている。職員もさらに快適に過ごせるように、室温湿度に気配りして、不快感を与えないように努めている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりに応じ安全かつ自立に寄り添える環境作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				